

座 公 発 第 3 3 号

令 和 0 4 年 0 8 月 2 9 日

国土交通大臣 殿

座間市長

社会資本総合整備計画の変更について

令和03年08月13日 付け 座公発第40号 で提出した、社会資本総合
整備計画について、別添のとおり変更するので提出する。

社会資本総合整備計画

社会資本整備総合交付金

令和04年08月29日

計画の名称	東原地区における街なみ環境の向上													
計画の期間	平成30年度 ～ 令和04年度（5年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	座間市													
計画の目標	市街地内の散策路として、サクラの植樹、花壇設置、歩道、自転車道を整備することにより、利用する人の散策路歩きを味わうことのできる住民自ら持続可能な景観まちづくりを目指します。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		285	A	285	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H29当初)	(R2末)	(R4末)
1	地域住民の利用と、隣接道路の通過交通・事業所利用者・来訪者の視点にも配慮した美装化した【仲よし小道】を目指します。			
	小道づくりを整備・美装化することによる次世代のための、サクラ維持管理や花壇維持活動に協働参加する市民団体（自治会等）・事業者等の参加団体率 参加団体率＝参加団体数÷想定する東原地区協働参加団体 ※市が想定する東原地区協働参加団体数を5団体とする。	80%	60%	100%
2	小道づくりへの住民参加を促進し、愛着のある【仲よし小道】を育てる。また、街なみ環境整備事業によって得られた住民の実感を向上させる。			
	市民アンケート調査【(仮称)仲よし小道(東原地区)街なみ調査】を行い、【仲よし小道】が整備され、憩いの場となってきたと思う割合 割合＝憩いの場となってきたと思う人数（15歳以上）÷東原地区の住民数（15歳以上） ※対象地区・人数：東原三～五丁目地区 4,820人（H29.4現在）	35%	25%	40%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	座間市	直接	座間市	—	—	東原地区街なみ環境整備 事業	植栽整備、ベンチ整備、遊歩 道・歩道・自転車道の美装化 、下排水施設整備、ストリー トファニチャー（分離柵）の 設置	座間市	■	■	■	■	■	285	2.02	策定済	
											小計							285		
											合計							285		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H30	H31	R02	R03	
配分額 (a)	22	30	30	30	
計画別流用増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	22	30	30	30	
前年度からの繰越額 (d)	0	0	0	0	
支払済額 (e)	22	30	30	30	
翌年度繰越額 (f)	0	0	0	0	
うち未契約繰越額(g)	0	0	0	0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

事前評価チェックシート

計画の名称： 東原地区における街なみ環境の向上

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性が確保されている。（計画名：座間市緑の基本計画）	○
I. 目標の妥当性	
②景観形成を図るべき地域として位置づけられている。（地域名称：座間市内全域）	○
I. 目標の妥当性	
③地域の現状分析が適切になされている。	○
I. 目標の妥当性	
④地域の課題を的確に踏まえた目標となってる。	○
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標(数値目標)の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
②指標・数値目標が明瞭なものとなってる。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性がある。	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境 1) 計画について住民等との合意形成ができている。	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境 2) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性	
②地元の機運 1) 事業推進に向けた地域の機運が醸成されている。	○
III. 計画の実現可能性	
②地元の機運 2) 地域の活動・関連事業との連携による事業効果発現の確実性がある。	○
III. 計画の実現可能性	
③計画期間中の計画管理を実施する予定である。	○